

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号		院生氏名	石橋 昭子
通学キャンパス			
論文題目	精神科訪問看護師からみた統合失調者に対するレスパイトケアの活用可能性に関する研究		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究の目的は、精神科訪問看護師からみた地域で生活する統合失調症者およびその家族介護者に対するレスパイトケアの活用可能性について明らかにすることである。</p> <p>研究1では、統合失調者に対するレスパイトケアの概念を Walker &amp; Avant の概念分析を用いて行い、「地域生活をおくる統合失調症者と家族介護者との不調和や心の不調が生じた療養者の主体的な短期宿泊により、地域生活の維持へのエンパワメントに向けて、生活支援を受けながら心身のマネジメントや休息を行なう」という結果を得た。研究2では、訪問看護師がレスパイトケアの活用を促した内容を明らかにするため、訪問看護師11名にインタビューを行い、SCAT分析を実施した。その結果、レスパイトケアの活用を促した内容は、「家族介護者に依存した不健康な日常生活の改善と慢性化した不安定な精神状態のマネジメント」であった。研究3では、レスパイトケアの活用可能性を明らかにするため訪問看護師を対象に質問紙調査を行った。レスパイトケアを活用した訪問看護師は16.9%であったが、87.1%がレスパイトケアの必要性を認め、地域生活をおくる統合失調症者と家族介護者の関係保持が、レスパイトケアの主な活用可能性であった。</p> <p>本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認(17-Ifh-042、18-Ifh-048)を得て実施され、倫理的に問題はなかった。</p> <p>本研究により、今まで明らかでなかった統合失調症に対するレスパイトケアの概念が、概念分析と訪問看護師の質的データから明らかにされ、さらに統合失調症者およびその家族介護者に対するレスパイトケアの活用の実態および今後の活用可能性が明らかとなり、統合失調症者の地域移行支援体制にむけて意義ある知見を提示した研究であると評価する。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>初回審査(2019年12月10日)を遠隔システムでキャンパス間をつなぎ開催した。口頭試問では研究背景や用語の確認、論文構成、統計処理の仕方等について質問を行い、再考や再編を求めた。また文章表現や不明瞭な記述内容があり、複数回の追加修正を求めた。最終的に2020年1月11日に修正論文が提出され、的確に修正されていることを3人の審査員で確認した。</p> <p>3. 可否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は、本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	原田 浩二	
	副査	鈴木 英子	
	副査	日田 勝子	